

## 竹下大臣ぶら下がり会見（宮城県訪問）

（平成27年7月19日（日）10：25～10：29 於）宮城県岩沼市）

### 1. 発言要旨

きょう、この玉浦西のまち開きに参加をさせていただきました。皆さん方ご存じのように、各集落のそのつながりを残したまま、この6集落が玉浦西で一つの新しいふるさとをつくろうということで、大変高い評価をしなければならない、すばらしいまち開きだと、こう思っております。

ただ、問題はこれからでございまして、ふるさとの魂を打ち込む、この大事な大事な仕事これから、玉浦西の皆さん方お一人お一人の方にかかっているわけでありまして、伝統もつくっていかなくちゃいかんと。それぞれのまちのこれまでの集落の思いを引き継ぎながら、しかし玉浦西という一つの統一された伝統、ふるさと意識というものをどうつくり上げていくか。これは簡単なことではありませんが、私は必ずやっていただけると、復興のトップラナーとして今日までやってこられた皆さん方ありますので、必ずいいものをつくってくれるんじゃないかなと、高く期待をいたしております。私からは以上でございまして。

### 2. 質疑応答

（問）岩沼市の玉浦西地区は住民主体のまちづくりをずっと進めてきたということで、そのことについてはどのようにお考えですか。

（答）どうしても被災に遭ったときに、とりあえず避難する、仮設へ入るということで、一旦集落がばらばらになり、そしてまた、例えば復興住宅が建てばそこへばらばらに集まってくるという、コミュニティをどうつくっていくかというのが復興の大きな鍵だと思っております。

ところが、この玉浦西は沿岸の6集落が、それぞれの集落の固まりを維持しながら、そのまま新しい地域にそれぞれの集落ごとに入っていっちゃると、すばらしいことだと思いますよ。お知り合いの方たちがもう、移った瞬間から昔なじみの人たちがいるという、これは人間が生活していく上で非常に心温まるというか、安らぐことであり、こういう形で玉浦西がまち開きしたことは、本当にすばらしいと、こう思っております。

（問）きょう改めて、2月にこちらに来て以来、というふうに聞いたんですけれども、大分そこからも引越等々が進んできて、改めてきょう、まちを少しでしようけれどもごらんになった感想を、所感をいただきたいのですが。

(答) いわゆる防災集団移転という、一戸一戸自分で建てたうちと、それから災害公営住宅という形のもが入り混じっておりますし、しかもそれが集落ごとに固まりとして入っている。また、4つの公園が配置をされている。さらにきょう見たら、新しい、名前は忘れましたがスーパーマーケットができておりまして、ああ、買い物もまた便利になるなど。近くに病院もありますし、いいところを選んで集団で移ってこられたなという。あとは魂を打ち込む仕事だと、こう痛感をしました。

(問) ありがとうございます。

(答) ありがとうございます。

(以 上)